

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-155476

(43)Date of publication of application : 20.06.1995

(51)Int.Cl.

A63H 1/00

A63F 9/00

(21)Application number : 05-339753

(71)Applicant : BANDAI CO LTD

(22)Date of filing : 06.12.1993

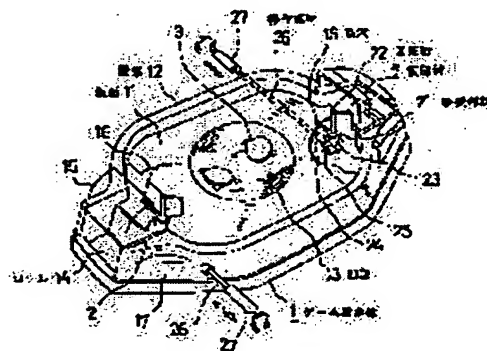
(72)Inventor : ITO KEISUKE
SAWADA MINORU

(54) TOP TOY AND GAME BOARD

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a game board in which a top toy is made easy to move as much as possible at the top spinning of the top toy, and a game can be played by use of this top toy.

CONSTITUTION: A shaft member having a flat part on the top end is provided on the rotating center of a top toy body 3, and a groove is formed on the top end part. A game board body 1 has an edge part 12 protruded on the circumference of a plate surface 11 and a recessed part 13 formed in the central part. Goals 14 are provided on both sides with the recessed part 13 between. Horizontally movable and rotatable plate members 3 are provided on this side of the inlet port of the goal parts in such a manner as to be externally operable.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

16.04.1996

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

2743056

[Date of registration]

06.02.1998

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-155476

(43) 公開日 平成7年(1995)6月20日

(51) IntCl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 3 H 1/00		B		
		E		
A 6 3 F 9/00	5 0 4	Z		

審査請求 未請求 請求項の数5 F D (全5頁)

(21) 出願番号 特願平5-339753

(22) 出願日 平成5年(1993)12月6日

(71) 出願人 000135748

株式会社バンダイ
東京都台東区駒形2丁目5番4号

(72) 発明者 伊藤 圭介

東京都台東区駒形2丁目5番4号 株式会
社バンダイ内

(72) 発明者 澤田 稔

東京都台東区駒形2丁目5番4号 株式会
社バンダイ内

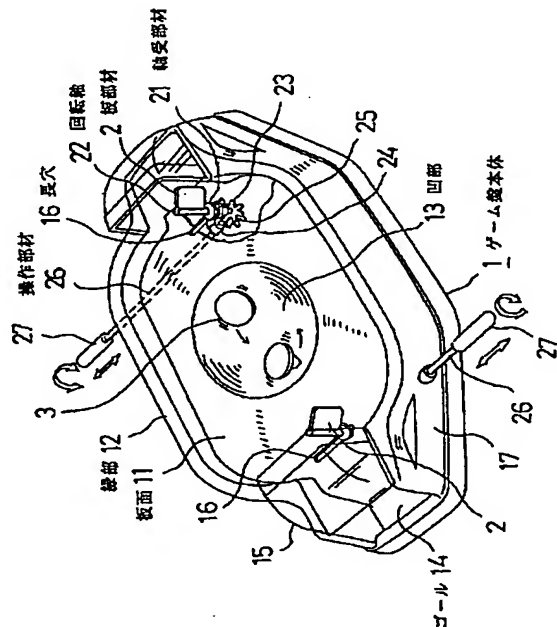
(74) 代理人 弁理士 高田 修治

(54) 【発明の名称】 独楽玩具およびゲーム盤

(57) 【要約】

【目的】独楽玩具の独楽遊びの際に独楽玩具ができるだけ移動しやすくするとともに、この独楽玩具を用いて競技を行わせるゲーム盤を提供することを目的とするものである。

【構成】独楽玩具本体3の転中心には先端に平坦部41をもつ軸部材4が設けられ、同先端部には、溝42が形成されている。ゲーム盤本体1には板面11の周囲に縁部12が突設され、中央部に凹部13が形成されている。同凹部13を挟んで両側にゴール14が設けられている。ゴール部の入口手前には横移動および回転自在な板部材2が外部操作可能に設けられている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記の要件を具えた独楽玩具のゲーム盤。

(イ) 本体は所定の面積の板面と、その周囲に突出する凸状の縁部が形成されていること。

(ロ) 板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されていること。

(ハ) 板面には凹部を挟んで両側にゴールが設けられていること。

【請求項2】 下記の要件を具えた独楽玩具のゲーム盤。

(イ) 本体は所定の面積の板面と、その周囲に突出する凸状の縁部が形成されていること。

(ロ) 板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されていること。

(ハ) 板面には凹部を挟んで両側にゴールが設けられていること。

(ニ) ゴール部の入口手前には横方向に長穴が形成され、同長穴には回転自在に軸受けされた板部材が設けられていること。

(ホ) 板部材の回転軸には歯車が設けられるとともに、これと噛合する歯車を具えた操作部材が長穴に沿って移動自在に設けられていること。

【請求項3】 下記の要件を具えた独楽玩具。

(イ) 本体は略円盤状に形成され、その回転中心には先端に平坦部をもつ軸部材が設けられていること。

(ロ) 軸部材の先端部には、溝が形成されていること。

【請求項4】 下記の要件を具えた独楽玩具およびゲーム盤。

(イ) 独楽玩具本体は略円盤状に形成され、その回転中心には先端に平坦部をもつ軸部材が設けられていること。

(ロ) 軸部材の先端部には、溝が形成されていること。

(ハ) ゲーム盤本体は所定の面積の板面と、その周囲に突出する凸状の縁部が形成されていること。

(ニ) 板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されていること。

(ホ) 板面には凹部を挟んで両側にゴールが設けられていること。

【請求項5】 下記の要件を具えた独楽玩具およびゲーム盤。

(イ) 独楽玩具本体は略円盤状に形成され、その回転中心には先端に平坦部をもつ軸部材が設けられていること。

(ロ) 軸部材の先端部には、溝が形成されていること。

(ハ) 本体は所定の面積の板面と、その周囲に突出する凸状の縁部が形成されていること。

(ニ) 板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されていること。

(ホ) 板面には凹部を挟んで両側にゴールが設けられて

いること。

(ヘ) ゴール部の入口手前には横方向に長穴が形成され、同長穴には回転自在に軸受けされた板部材が設けられていること。

(ト) 板部材の回転軸には歯車が設けられるとともに、これと噛合する歯車を具えた操作部材が長穴に沿って移動自在に設けられていること。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、独楽玩具および独楽遊びの際に用いられるゲーム盤に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、独楽玩具は主に単独で回転させて遊ぶだけであった。したがって、独楽遊びの際に複数の独楽玩具を用いて、互いに競技させるための専用のゲーム盤は見あたらなかった。

【0003】 上記従来の独楽玩具は、独楽遊びの際に、できるだけ回転を安定させることを目的として形成されていた。よって独楽玩具の回転軸となる端部は略円錐状に形成されていた。しかし、これを断面略円弧状に湾曲した競技面上に回転させると、回転が安定しているが、動きが鈍く、斜面を移動することが難しかった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は上記問題点を鑑み案出したものであって、独楽玩具の独楽遊びの際に独楽玩具ができるだけ移動しやすくするとともに、この独楽玩具を用いて競技を行わせるゲーム盤を提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明の独楽玩具のゲーム盤は下記の構成を有する。

(イ) 本体は所定の面積の板面と、その周囲に突出する凸状の縁部が形成されていること。(ロ) 板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されていること。

(ハ) 板面には凹部を挟んで両側にゴールが設けられていることである。

【0006】 本発明の独楽玩具のゲーム盤は下記の構成を有する。

(イ) 本体は所定の面積の板面と、その周囲に突出する凸状の縁部が形成されていること。(ロ) 板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されていること。

(ハ) 板面には凹部を挟んで両側にゴールが設けられていること。(ニ) ゴール部の入口手前には横方向に長穴が形成され、同長穴には回転自在に軸受けされた板部材が設けられていること。(ホ) 板部材の回転軸には歯車が設けられるとともに、これと噛合する歯車を具えた操作部材が長穴に沿って移動自在に設けられていることである。

【0007】 本発明の独楽玩具は下記の構成を有する。

(イ) 本体は略円盤状に形成され、その回転中心には先

端に平坦部をもつ軸部材が設けられていること。(ロ)軸部材の先端部には、溝が形成されていることである。

【0008】本発明の独楽玩具およびゲーム盤は下記の構成を有する。

(イ)独楽玩具本体は略円盤状に形成され、その回転中心には先端に平坦部をもつ軸部材が設けられていること。(ロ)軸部材の先端部には、溝が形成されていること。(ハ)ゲーム盤本体は所定の面積の板面と、その周囲に突出する凸状の縁部が形成されていること。(ニ)板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されていること。(ホ)板面には凹部を挟んで両側にゴールが設けられていることである。

【0009】本発明の独楽玩具およびゲーム盤は下記の構成を有する。

(イ)独楽玩具本体は略円盤状に形成され、その回転中心には先端に平坦部をもつ軸部材が設けられていること。(ロ)軸部材の先端部には、溝が形成されていること。(ハ)本体は所定の面積の板面と、その周囲に突出する凸状の縁部が形成されていること。(ニ)板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されていること。(ホ)板面には凹部を挟んで両側にゴールが設けられていること。(ヘ)ゴール部の入口手前には横方向に長穴が形成され、同長穴には回転自在に軸受けされた板部材が設けられていること。(ト)板部材の回転軸には歯車が設けられるとともに、これと噛合する歯車を具えた操作部材が長穴に沿って移動自在に設けられていることである。

【0010】

【作用】上記の構成において、独楽玩具の本体は略円盤状に形成され、その回転中心となる軸部材には先端に平坦部が形成されているので、独楽遊びの際に所要の回転安定性を得ることができる。しかも、同軸部材の先端部には、溝が形成されているので、この溝が遊戯面にたいして接触することにより、独楽玩具の動きが活発となり、ある程度の斜面を自由に移動することが可能となる。

【0011】独楽玩具のゲーム盤は所定の面積の板面の周囲に突出する凸状の縁部が形成されているので、独楽遊びの際に、独楽玩具をこのゲーム盤内に回転させると、独楽玩具が移動により縁部に当たると反発され、同独楽玩具がゲーム盤の外側に脱出するのを抑えることができる。また、ゲーム盤の板面の中央部には、断面略円弧状の凹部が形成されているので、独楽玩具はこの凹部内に移動しやすくなり、複数の独楽玩具を投入すると、この凹部内で衝突させることができる。また、凹部を挟んで両側にゴールが設けられることによって、上記凹部内で衝突して弾かれた独楽玩具をゴール内に受け入れることができる。

【0012】上記ゲーム盤にはゴールの入口手前に横方向に長穴を形成し、同長穴には回転および移動自在に板

部材が設け、この板部材を外部から操作可能に構成することができる。この場合、上記独楽遊びの際に、ゴール内に飛び込もうとする独楽玩具に対して、サッカーゲームのゴールキーパーの様に、上記板部材の移動と回転によって弾き返すことができる。

【0013】

【実施例】以下図に示す実施例に基づいて本発明を説明する。図1において、1はゲーム盤本体であって、同ゲーム盤本体1には、合成樹脂板の成形により独楽遊びの遊戯面となる様に、所要の広さの板面11が形成されている。同板面11の周囲には凸状の縁部12が一体的に突設されている。同じく板面11の中央部には、図2の様に、断面略円弧状の凹部13が形成されている。この凹部13を挟んで板面11の両側には夫々縁部12を取除いて、板面11に連なる凹部状のゴール14が設けられ、同ゴール14にはその上部を覆う形の透明なカバー体15が設けられている。

【0014】上記ゴール14の入口手前には夫々横方向に長穴16が形成され、同長穴16には移動可能に軸受部材21が設けられている。同軸受部材21には回転軸22が軸受けされ、同回転軸22の上部には板部材2が設けられ、下端にはこれを駆動するための歯車23が設けられている。

【0015】上記軸受部材21には回転軸22と略直角方向に軸受け24が一体形成されている。同軸受け24には、上記回転軸22の下端の歯車23と噛合する歯車25を具えた操作部材26が軸受けされている。同操作部材26の一端はゲーム盤本体1の側板17を通して外部に突出させ、その端部にはつまみ27が形成されている。

【0016】図3は独楽玩具を示すもので、この独楽玩具本体3は略円盤状に形成され、その回転中心には先端に平坦部41をもつ軸部材4が設けられている。また、同軸部材4の先端部には、略V形の溝42が形成されている。

【0017】上記の構成により、独楽玩具本体3の回転中心となる軸部材4には先端に平坦部41が形成されているので、独楽遊びの際に、この平坦部41が遊戯面に接触して、所要の回転安定性を得ることができる。しかも、同軸部材4の先端部には、溝42が形成されているので、この溝42が遊戯面に接触することにより、所要の摩擦力を受けて、回転に伴う独楽玩具本体3の動きが活発となり、ある程度の斜面に対しても、滑ることなく自由に移動することが可能となる。

【0018】上記ゲーム盤本体1は遊戯面となる板面11の周囲に縁部12が形成されているので、独楽玩具本体3を板面11上に回転させると、独楽玩具本体3が移動してこの縁部12に当たると反発される。これによって、独楽玩具本体3がゲーム盤本体1の外側に脱出するのを抑えることができる。また、ゲーム盤本体1の板面

11の中央部には、断面略円弧状の凹部13が形成されているので、独楽玩具本体3はその傾斜に沿って凹部13内に移動しやすくなる。

【0019】ここで、複数の独楽玩具本体3を回転させてゲーム盤本体1内に投入すると、同独楽玩具本体3が移動により縁部12当ると、これに反発されて凹部13内に移動し、互いに衝突させることができる。また、ゲーム盤本体1にはゴール14が形成されているので、上記凹部13内で衝突して弾かれた独楽玩具本体3をゴール14内に受け入れることができる。

【0020】上記ゴール14の入口手前には回転および移動自在な板部材2が設けられているので、操作部材26のつまみ27を持って軸方向に前後させると、長穴16に沿って軸受部材21と一体に板部材2を横移動させることができる。同じくつまみ27を持って回転させると、歯車23、25を介して回転軸22と共に、板部材2を回転操作することができる。

【0021】しかし、上記独楽遊びの際に、ゴール14内に飛び込もうとする独楽玩具本体3に対抗して、上記操作部材26のつまみ27の外部操作により、サッカーゲームのゴールキーパーの様に、板部材2の横移動と回転を行うことができ、独楽玩具本体3を弾き返すことができる。

【0022】

【発明の効果】上記の様に本発明の独楽玩具は、軸部材の先端に平坦部により、独楽遊びの際に所要の回転安定性を得ることができる。しかも、同先端部には、溝が形成されているので、この溝が遊戯面にたいして接触することにより、独楽玩具の動きが活発となり、ある程度の斜面でも自由に移動することが可能となる。独楽玩具のゲーム盤は縁部が形成されているので、独楽遊びの際に独楽玩具がゲーム盤の外側に脱出するのを抑えることが*

＊できる。また、独楽玩具は板面の中央部に形成された凹部内に移動しやすく、複数の独楽玩具を投入すると、この凹部内で衝突させることができる。また、上記凹部内で衝突して弾かれた独楽玩具は両側のゴール内に受け入れることができる。このゴールの入口手前には外部操作可能で回転および移動自在な板部材が設けることによって、上記独楽遊びの際に、ゴール内に飛び込もうとする独楽玩具を弾き返すことができる。これによって、独楽玩具を用いてサッカーゲームの様な遊びを行うことができ、従来できなかった独楽玩具の遊びを広げることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す独楽玩具のゲーム盤の要部切欠斜視図である。

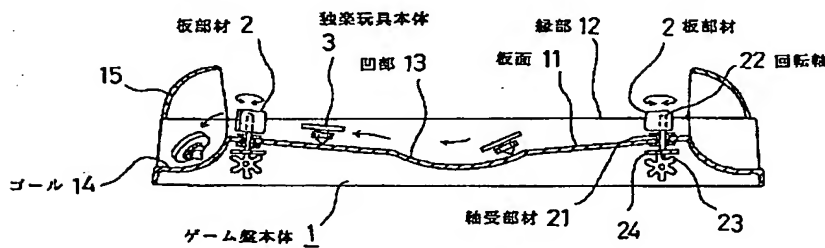
【図2】本発明の独楽玩具のゲーム盤の要部切欠側面図である。

【図3】本発明の独楽玩具の斜視図である。

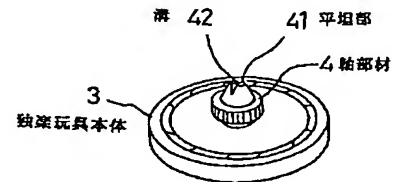
【符号の説明】

- 1 ゲーム盤本体
- 2 板部材
- 3 独楽玩具本体
- 4 軸部材
- 11 板面
- 12 縁部
- 13 凹部
- 14 ゴール
- 16 長穴
- 21 軸受部材
- 22 回転軸
- 26 操作部材
- 41 平坦部
- 42 溝

【図2】



【図3】



【図1】

